



白石神楽「毘売舞」(山都町)



仁瀬本神社神楽「五穀」(山都町)



大人歌舞伎(宮崎県日之影町)



中江岩戸神楽(阿蘇市波野)



高千穂の夜神楽(宮崎県高千穂町)



鞍岡祇園神楽(宮崎県五ヶ瀬町)

舞い継ぎ、演じ継いで、受け継がれる伝統

九州山地神楽祭り

1月28日
蘇陽総合支所大ホール



ホールでは町のうまいもんで観客をおもてなし

このほか、宮崎県指定無形民俗文化財の「大人歌舞伎」、平家一族ゆかりの京都文化の影響を受けた「鞍岡祇園神楽」、国の選択無形民俗文化財の指定を受け、今年も迫力の舞を披露した「中江岩戸神楽」、同じく国の重要無形民俗文化財の指定を受けている「高千穂の夜神楽」が、約40分のダイジェスト版を次々と披露しました。

会場には、前回は上回る約300人もの神楽ファンが集まりました。県内はもちろん県外からのお客さんも多数詰めかけて、神楽独特の笛と太鼓の演奏にあわせた神々しい舞に、盛んな拍手を送っていました。会場のホールでは、地元食材を使ったお弁当、ブルーベリー製菓や野菜などのバザーが行われました。



観客を魅了した「大阿蘇蘇陽太鼓喜楽」の演奏

「第10回九州山地神楽祭り」が1月28日、蘇陽総合支所大ホールで開かれました。

今年は、「仁瀬本神社神楽」(二瀬本)、「白石神楽」(白石)の町内2団体、そして「中江岩戸神楽」(阿蘇市波野)、「鞍岡祇園神楽」(宮崎県五ヶ瀬町)、「高千穂の夜神楽」(宮崎県高千穂町)に加えて、宮崎県日之影町の「大人(おおひと)歌舞伎」が初出演。地域で受け継がれてきた、それぞれに特徴ある、そして厳格なる雰囲気のある舞が次々と舞台上で演じられました。

オープニングを飾るのは、今年結成10周年を迎えた「大阿蘇蘇陽太鼓喜楽」。静かな序章から徐々に激しくなっていくオリジナルの演奏に、会場は一瞬にして魅せられました。「喜楽」は昼食後にも「凜」など5曲を演奏しました。

開会セレモニーに続き、最初に舞いを披露したのは「仁瀬本神社神楽」。神社の創建年代(約900年前)に始まったと伝えられているこの神楽。一時途絶えましたが、1785年に復活。以来、代々口伝により継承され、現在18名の保存会会員により守られています。演目は「五穀(ごこく)」。五穀豊穡を感謝する舞いです。

続いて登場したのは、「白石神楽」。演目は「八雲舞」と「毘売舞」。宮崎県五ヶ瀬町鞍岡

に伝わる神楽を習い、白石地区の「お天道さん祭り」に奉納するのが始まりと言われています。こちらも一時期中断していましたが、平成17年、地元有志により保存会が発足(現在は会員14名)、翌平成18年12月4日27年ぶりの復活を果たしました。以降毎年11月第4土曜日に「お天道さん神楽まつり」にて舞い続けられ、平成22年11月に全33座を復活させています。